

# 昨年度を振り返って

理事長 長谷川 憲 治

昨年度は、理事長・後援会長・事務局長が揃って交代した直後という大変な状態でのスタートとなりました。しかし、相談員や事務局の方々のご努力や関係各位のご理解とご支援に支えられ、無事に一年を終える事が出来ました。全ての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

先ず最大の使命であります電話相談事業ですが、お陰様で相談受信件数が7,131件となり、15年ぶり7,000件の大台を突破しました。相談員の方々のご努力の賜と嬉しく思い深くお礼を申し上げます。又、長年の課題であります相談員不足ですが、少しずつ改善に向かってきております。前期スタートの4月1日時点での相談員数は79名でしたが、今期スタートの4月1日では86名に増加、直後の4月11日に新たに10名が相談員の認定を受けられ計96名となり、更に現在22期生8名が研修中であります。来年4月に予定している認定式で全員が認定を受けられれば計104名となり、念願であった100名超えも見えてきつつあります。山形いのちの電話に対する認知度やご理解が進んでいる表れでもあると思いますが、何より「相談員という困難ながら社会的に極めて意義深い仕事」に取り組んでみようという高い志をお持ちの方が増えてきておられる事は、涙が出る程有難く感謝に堪えません。

後援会の目玉事業でもあります「山形いのちの電話チャリティーコンサート」も、井上後援会長以下皆さんのご奮闘で、昨年の約2倍のチケットを販売して頂き、予定以上の賛助金を頂戴出来ました。改めて感謝とお礼を申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルスという未曾有の危機下でのスタートとなり、研修や会議等の一部は延期や中止と致しましたが、肝心の相談業務は事務局員の懸命の感染予防対応と相談員の方々の高い志に支えられ何とか維持継続しております。新型コロナの影響で相談の電話も増加すると予想され、山形いのちの電話の意義もより一層高まろうかと思われます。これからも「悩んでおられる人々に少しでも寄り添い、お役に立てれば」との想いで活動を続けて参りますので、変わらぬご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

## いのちの電話の目的

---

いのちの電話は、孤独の中にあつて、時には精神的危機に直面し、自殺をはじめ、助けと励ましを求めている一人一人と、主に「電話」という手段で対話することを目的とする。